

## 「人生の軌跡 “自分史” 出版のススメ

～電機業界での経験と歩みから今後の展望まで～」を開催しました。

平成28年12月3日（土）、元松下寿電子工業（株）専務取締役・監査役を歴任し、現在、（株）レクザム顧問を務めている岡本司氏を講師に迎え、講座を開催しました。

まず、「自分史」を出版したきっかけですが、企業の朝会でこれまでの仕事に対する所感を話したところ非常に評判がよかったことや、自身が開発に携わったビデオカメラを始めとする商品群の歴史本を後世に残したかったことなどが大きな理由だそうです。

また、「自分史」の制作に当たっては、膨大な数の写真や、海外から持ち帰ったマッチ箱・ゴルフのスコアカードといった思い出の品を時間軸上に並べて整理するとともに、仕事やプライベートで出会った思い出のひとコマや人生訓を盛り込むことで、唯一無二の生きた証としての「自分史」ができあがるそうです。なお、「自分史」の製本は、製本機とレーザープリンタさえ用意すれば、低価格かつ高品質なものが作れるため、ぜひ挑戦してほしいとのことでした。



次に、本講座では、数々の電化製品の開発に携わった講師自らの経験を踏まえ、日本の電機業界の衰退理由と復活に向けた、今後の処方箋についても説明がありました。



まず、衰退理由としては、①サラリーマン社長の増加による長期的投資の抑制と自己保身、②大規模なリストラに伴う優秀な人材の流出（韓国・中国）、③デジタルによるコモディティ化（差別化が困難となった製品・サービスによる価値獲得の失敗）、④ガラパゴス化（国際標準からの乖離）、⑤海外留学の減少に伴うグローバル人材の不足などが挙げられるとの説明がありました。

また、日本の電機業界が復活するための処方箋としては、①長期的視点に立った経営判断、②従業員のプロ意識の醸成、③旺盛な学習意欲、④グローバル化（世界視野で物事を考え、地域で活動すること）、⑤メカトロ・光学部品・素材の強みを活かすことが重要であり、松下幸之助の有名な言葉『松下は人をつくる会社です』にあるとおり、原点回帰（人財育成）こそが復活の道であるとの説明がありました。

最後に、講師が制作した「自分史」を始め、額縁に綺麗に陳列された、まるでアートのようなマッチ箱やゴルフのスコアカードを受講者が熱心に見入っている姿がとても印象的でした。